

補綴の専門医として理想的なクラウンを作りたいと思って大学に残り、そこでたくさんの大切な経験をさせていただいた。そこには夢とは異なる臨床の問題解決という難問が次々と与えられた現実があった。顎関節症・咬合問題までは専門領域だが、いつの間にか義歯の難症例や小児歯科の難症例の登場と、治療技術の仮説溢れる世界に出会い、その仮説の検証作業がさらに視野を広げるきっかけとなった。そして、舌骨の存在と働きを整理する作業を経て多くの事実が統合できるようになった。統合の鍵は解剖学者・三木成夫氏が示した直筋系という考え方であった。これがヒトの正常な身体活動を示してくれたのである。

治療技術を発見し、それを普遍化し、統合した法則にすることが毎日の仕事になっていくなかで、時流に流されない先達が遺したものを見つけることがもう一つの楽しみになっていた。それは治るという事実をどう説明できるかという一言に尽きる。

全部床義歯はありがたい装置である。それは1人の患者に幾つも提供し、その使用感を確認してもらうことで、理論を確認し高めていくことができるのである。これが小児の育児の分野では、理論を試して失敗がわかった時点で取り返しがつかないことになる。それだけに慎重な対応をしなければならない。本書は義歯の本か発達の本か焦点が定まらないようできて、実は同じ「舌骨」という土俵の上で記載したものである。

舌反射と舌口蓋反射の存在で巧みに行われていた口腔機能を、三木氏の示す直筋系を使った呼吸要素と矛盾のないかたちで説明することができた。浅学非才ながら、顎位と顎機能について、補綴専門医の端くれとして、ここに“ファイナルアンサー”として提示し、歯科医療における顎位の概念の一部を披瀝した。

——本書を読まれる方々へ

本書では姿勢などのわかりにくいことが多く書かれているが、読者のみなさんにはぜひとも図に示したような姿勢を試していただきたい。そしてその姿勢で呼吸や咀嚼を実践し、理論は理解できなくても事実を体験していただければ本書の目的の半分は達成できる。

本書の制作にあたり、多くの研修会の先生方の助言と資料を使わせていただいた。そのご縁とご協力に深く感謝を申し上げる。また、いままで育てていただいた日本歯科大学と、大学の先輩・後輩諸氏なくしてはいまはない。衷心よりの感謝を申し上げる。さらに、多くの無歯顎の患者のご協力をいただいた。その愛情あるご指導に深甚なる謝意を表する。

今回発刊の機会を与えていただいたデンタルダイヤモンド社と担当である田村昭一氏の多大の労苦なくして本書は世に生み出されなかっただろう。深く感謝申し上げます。そして、天に輝く二つの星にも感謝の気持ちで本書を捧げる。

2022年3月

丸茂義二

改訂にあたって

『舌骨から紐解く顎機能の謎 丸茂義二のファイナルアンサー』の発刊から3年余が経過し、多くの方々からご質問を頂戴した。毎日のように戴く臨床現場からのご質問は、顎機能に対する質問というより、もっと具体的な呼吸障害であったり、嚥下障害のように著者の考え方よりももっと口腔機能そのものの具体的な形でやってきた。それにも増して、顎関節症症状などは示さないものの、義歯の使い勝手などの補綴物の製作法とトラブルへの対処法のご質問が多く、顎機能という形よりもその具体的な臨床の質問に対して、それは舌骨というものを思考の中心として考えると原因もわかりやすいと思う場面が非常に多かった。

また、子どもの顎機能に関してのご質問も、顎口腔系の発育の中における疑問点が非常に多く寄せられた。なぜ子どもたちの口腔の発育が悪いのか。萌出時期の異常や歯列異常を超えた顎堤異常、そして口腔内の狭さなど多くの劣化とも思える状況に出会った。さらに形態的に口腔内の不良だけではなく、発達障害といわれる身体機能の異常や脳機能の異常などの諸機能の劣化に対応して、子どもたちの全身に現れる問題点が口腔にも目に見える形として凝縮して現れていることがわかってきた。

なんといっても舌骨の機能を回復させる具体的な口腔内の原因がわかり、対策の装置の効果が舌骨機能の本質を教えてくれたことが大きい。具体的な治し方がわかってきたので、いままでよりも具体的に問題点を抽出し、効果的な対策が取れるようになった。

また、高齢者におけるさまざまな機能障害、とくに従来は老化と思われていた身体の劣化、とくに口腔機能の低下は、子どもの口腔内に現れる口腔機能発達不全症と近似した性格をもっており、口腔機能の上り坂の問題点と下り坂の問題点というような、何か共通した鍵をもっているように観察された。

口腔内装置は呼吸機能の改善から始まり、咀嚼・嚥下機能を正常化させた。さらに装置を改善して後頭下筋群の正常化へと到達し、歯科領域からここまで改善ができることを知ってしまった。舌骨が嚥下を優先させた結果があまりにも重大な結果を作っていることを装置に教えられ、初版を超えた内容が明確になったところにデンタルダイヤモンド社より改訂のお話を頂戴した。はなはだ力不足だが舌骨のわがままをこのまま放置する訳にもいかず、改訂をお引き受けさせていただいた。

本来なら改訂版ではなく新刊として世に問うべきものであるが、過去を抹消するために改訂の道を選択した。多くの先生方のご協力なくしてこの改訂は実現できなかった。ご協力に深く感謝申し上げます。また改訂版の決断をいただいたデンタルダイヤモンド社の江口秀雄氏に深く感謝する次第であります。そして、全面改訂ともいえる編集とご指導をいただいた担当の田村昭一氏に感謝いたします。

2025年11月

丸茂義二